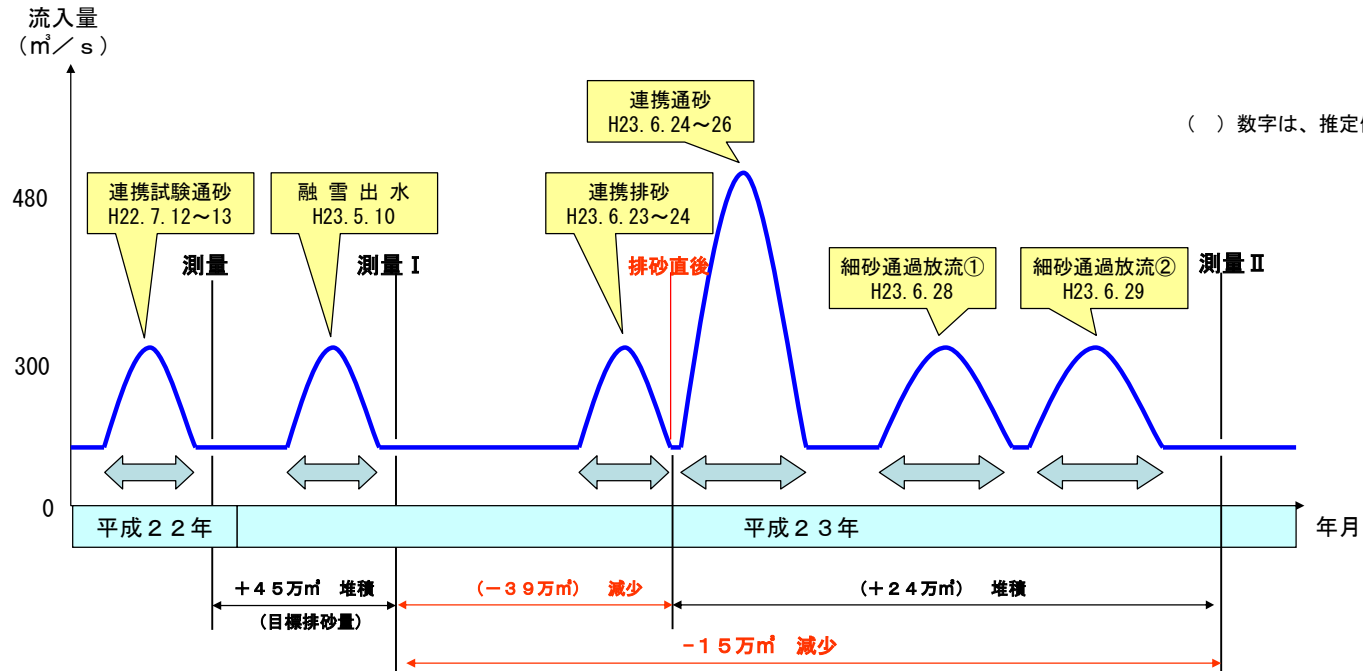


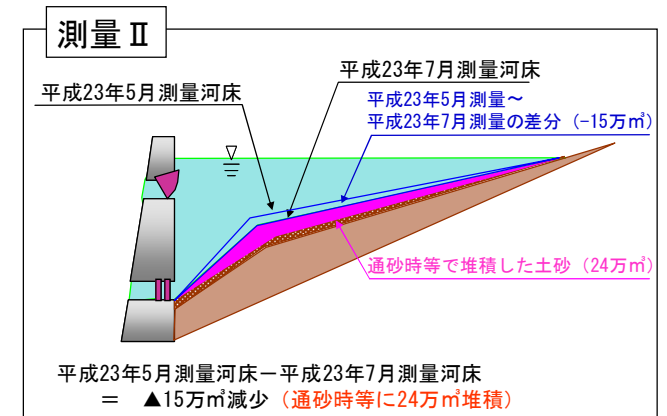
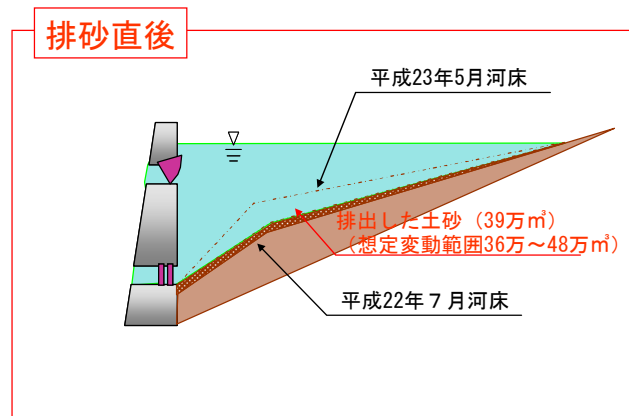
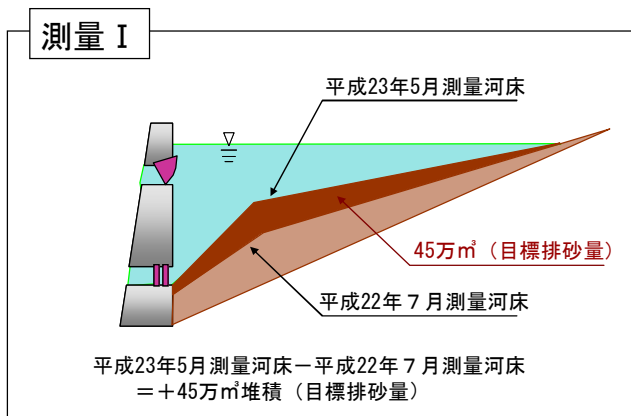
出し平ダムにおいて、排砂直後に測量が実施できず、第2回目の細砂通過放流後に実施した測量結果により河床変動量を算出した。
 なお、排砂時の排砂量については、再現計算により推定した。

1. 測量時期



土砂変動量	
H22.7 (試験通砂後) ~ H23.5	45万m ³
H23.5 ~ H23.6排砂後	(-39万m ³)
H23.6排砂後 ~ H23.7細砂2回後	(+24万m ³)
H23.5 ~ H23.7細砂2回後	-15万m ³

2. 堆砂形状の変化イメージ

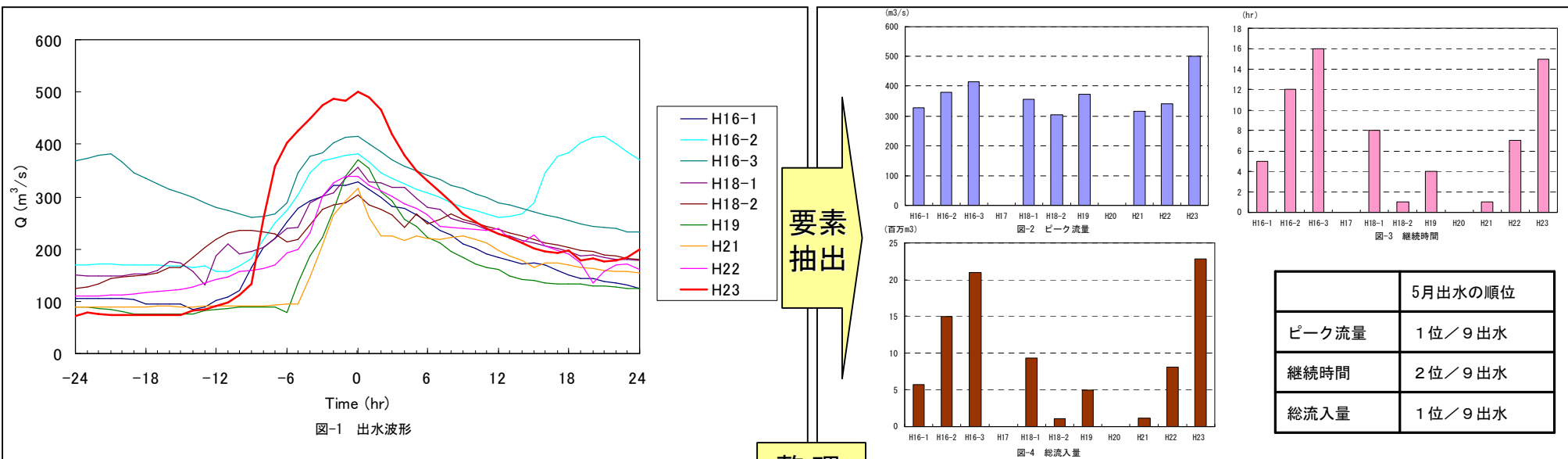


1. 背景

H23.5.10に発生した洪水に対して、H23年度予測モデルで再現計算を行ったところ、10万 m^3 堆積と算出したが、その後の測量では、20万 m^3 堆砂という結果であった。

2. 5月出水特性の把握

出し平ダムでは、流入量が300 m^3/s 以上で、土砂流入が卓越するとされていることから、5月測量が開始された平成16年以降の5月を対象とし、出水特性を整理した。



整理

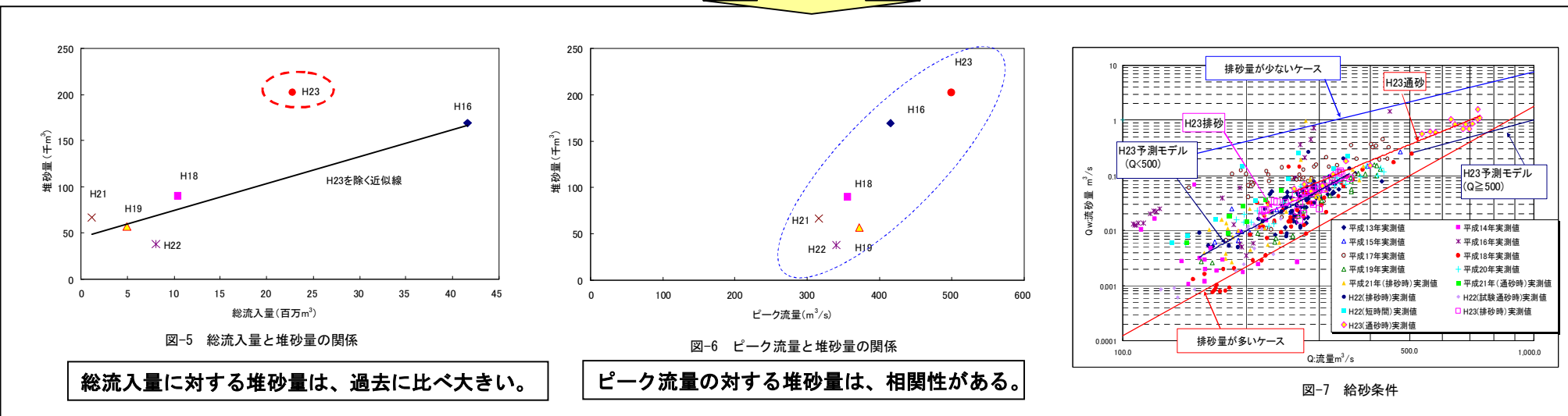


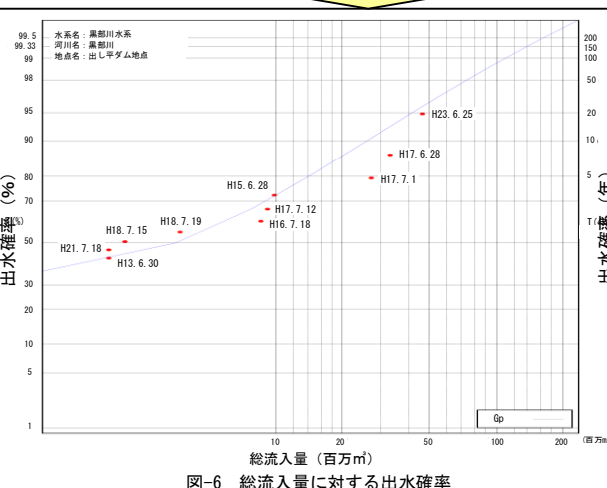
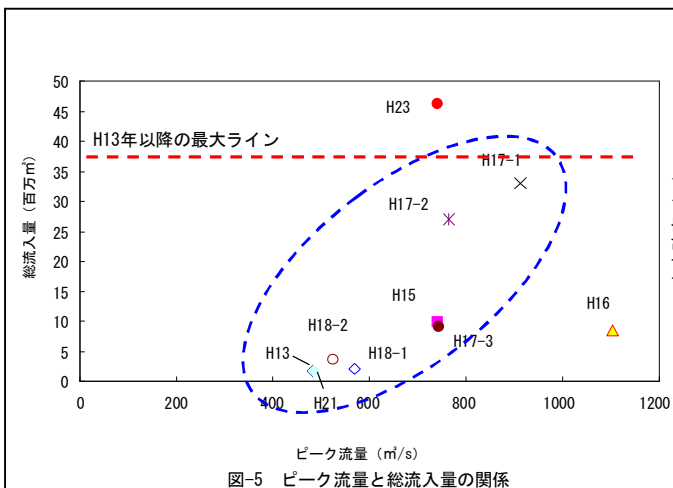
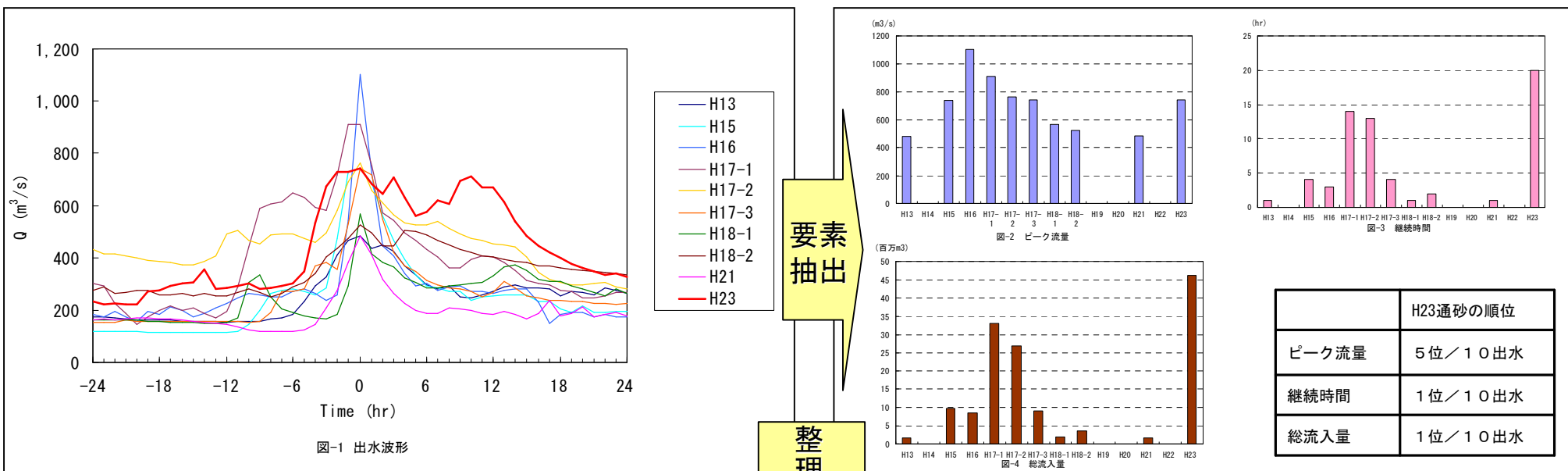
図-7 給砂条件

1. 背景

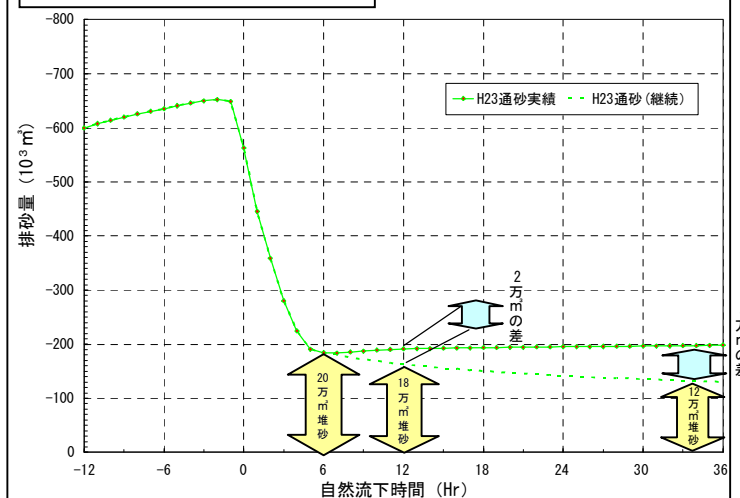
平成23年6月の通砂時において、H23年度予測モデルで現地シミュレーションを行ったところ、6時間で自然流下を終了と判断したが、その後の測量により、通砂時において20万 m^3 堆砂したことがわかった。

2. 平成23年6月出水特性の把握

連携通砂が開始された平成13年以降の通砂実施基準である480 m^3/s を超える出水を対象として、出水特性を整理した。



3. 連携通砂の妥当性



ピーク流量に対する総流入量は、過去に比べて多い。

1 / 20年確率で発生する出水である。